

HEIB講座春合宿

学生が主導的に企画・運営

最終日には研究発表



HEIB講座春合宿が3月24日から26日まで富士山中湖セミナーハウスで行われ、学生32人、教職員7人計39人が参加した。昨年12月の募集で入会した新会員と現会員が参加する合宿で、学生が「合宿係」として主導的に企画、運営を行った。今春合宿のテーマは「観光を通して山中湖の活性化につなげよう～日ごろの感謝を込めたプレゼントツアーを考えよう～」。クラフト体験、講演会、山中湖周辺散策を通じ5班に分かれてグループワークを行い、最終日には研究発表を行った。春合宿チーフである相原芙久美さん(経営3)の寄稿を紹介しよう。

自らの学習が楽しくなる

相原芙久美(経営3)



▲研究発表会(左端が相原さん)

今回の春合宿は、学生企画として「観光を通して山中湖の活性化につなげよう～日ごろの感謝を込めたプレゼントツアーを考えよう～」というテーマを提案しました。学生32人が5グループに分かれ、クラフト体験、山中湖村役場観光課の講演会、出牛正芳理事長の「消費者と消費者行動」についての講演会、そして山中湖周辺散策などを体験。それらを通して各グループがオリジナルの企画をたて、パワーポイントや模造紙を使って発表しました。2泊3日という限られた時間にもかかわらず充実した学習ができ、みんなそれぞれ「何か」を得ることができました。

私たち合宿係はこの合宿を良いものとするために12月から企画を立ち上げ、しおりを作成したり、さまざまな準備をしてきました。そうした活動の中で一人ひとりが自分の仕事に責任を持ち、また、係の壁を越えて全員参加型という体制で行うことができました。もし、参加者が一人でも欠けていたらここまで達成できなかったと思います。今回携わってくれた皆さんに「ありがとう」と言いたいです。

HEIB講座は、「お仕着せの」勉強をするのではなく、私たち学生が主体的に楽しく学習することができる場です。皆さんも私たちと一緒に自分探しをしませんか。そして充実した日々を過ごして見ませんか。

※HEIB講座＝各界で活躍する著名人を招いてマーケティング、経済、消費・流通に関する多彩な講義を展開するほか商品テストの体験実習、アンケート実習による消費者調査、工場見学・企業訪問といったフィールドワークも実施する。さらに暮らしの法律、作文、パソコン、ビジネスマナーなどユニークな講座も多数開講し、実社会で役立つ実務能力、女性として必要な資質を磨くことを目的としている。

ガイダンスを4月19日に

05年度(平17)の同講座新会員募集ガイダンスを次の通り実施する。

▽日時＝4月19日(火)12時15分～
▽場所＝生田キャンパス2号館1階215号教室
▽対象＝1・2・3年次生女性のみ
▽受付期間＝4月20日(水)～28日(木)
▽受付場所＝エクステンションセンター事務課(生田・神田両キャンパス)
▽年会費＝1万9000円(新会員)

就職課内インターンシップ –自ら考動できる力を–

望ましい職業観・就労観を身につけることを目的とした、いわゆる「キャリア教育」の必要性が叫ばれている中、本学においても、キャリアデザインセンターが設置された(詳細は次号で)。

就職課では、大学生として自ら「考動」できる力を身につけることを目的に、1年次生を対象とした課内インターンシッププログラムを3月7日から11日まで行った。実習内容は電話対応、来客対応(名刺受取、案内など)、企業訪問で、2月に事前研修を行い、実習後にはプレゼンテーション・総括も行われた。実習生から体験記が寄せられた。

「言葉貯金」と「経験貯金」

生田インターンシップ生として

板倉 沙織(経済2)



このインターンシップを通して「言葉貯金」をすることができました。これは最近私が作った言葉です。この期間で、多くの人と話し、多くの「いい言葉」をもらいました。しかし、今の自分にはまだその言葉のすべてを咀嚼(そしゃく)できない、そして言葉をくださった方々も「将来の理解」を期待している、と感じました。ですから「貯金」をして、この先の人生を歩んでいく中で大切に使いたいです。

これからの学生生活では、「経験貯金」をしていきたいと考えています。「大学生」という何でもできる独特な期間に多くの経験をしたい……。そこでは「主体的にやる」という言葉がキーワードになってくると思います。これは私の「言葉貯金」からの引用です。何に対しても主体的に取り組み、多くの「経験貯金」を持って、卒業したいです。

これら二つの「貯金」は私の財産となる事でしょう。この事を気付かせてくれた「就職課内インターンシップ」に、そして就職課の皆さんをはじめ、私のインターンシップという経験を作り上げてくださった方々に本当に感謝しています。

社会との関連を意識して

神田インターンシップ生として

橋本 将紀(法2)



今回、企業の採用担当者の方と直接お話する機会を得て、「今、企業が求めている人材」をじかに知ることが出来たのは大きな収穫でした。「『自分の』頭で考え、言葉で語り、意思で判断し、行動する人」。「自分で設定した目標を達成するための効率的な解決策を考え、他人を指示し、巻き込みながらプロセスを遂行する」。こういった自律型人間を欲しているということが分かりました。

また、「プロジェクトを成功へ導くためのシナリオを描き、それが実現された時の達成感 は生きがいである」という言葉にはとても共感を覚えました。

社会人とは、責任を成し遂げることで、他の人に必要とされていることを確認できるも

のです。さらに責任は自分の存在意義を確かめるためのツールにもなるということも、インターンシップの経験から実感出来ました。
企業のあり方や社会の動きを肌で感じる事が出来た今回の経験を生かし、学んでいることが社会とどのようにつながっているのかを意識して、今後の学生生活を送っていききたいと考えています。

経営学部・顕彰制度－協力企業と講師に感謝状



経営学部では、「社会知性の開発」を目標とする教育活動に対し、顕著な功績のあった企業、団体や個人を顕彰する制度を設けている。2004年度(平16)は『企業による提供講座』において、3年間講座を提供いただいた3企業と、5年間にわたり講義で講師を担当していただいた3個人に感謝状を贈った(別掲参照)。3月28日、生田キャンパスで感謝状贈呈が行われ、日高義博学長から手渡された。

【個人】

大井建興(株)代表取締役社長・大井富雄氏
(株)山崎機械製作所常務取締役工場長・山川恵則氏
東亜工機(株)会長吉田博男氏

【企業】

新日本監査法人
(株)パソナ
野村證券(株)

中期留学英語コース<前期>ワイカト大学に11人



2005年度(平17) 中期留学プログラムの英語コース・前期の参加者への留学許可書交付式が3月29日、生田キャンパスで行われ、大林守国際交流センター長から許可書が手渡された。大林センター長は「勉強も大切だが、地元の人と積極的に触れ合い、リラックスして異なる生活・文化を楽しんでほしい」とエールを送った。
このプログラムは昨年度から始まり、今回は別掲の11人が4月上旬から6月下旬まで、ニュージーランドのワイカト大学で研修に励んでいる。

▽伊藤美智子(経済3)▽山口一輝(法3)▽小倉光晴(経営3)▽山岡太郎(経営2)▽
柏木美智子(商3)▽岩崎麻衣子(商3)▽土谷朋子(文3)▽前田佳奈美(文3)▽宮澤
彩花(文3)▽森未樹子(文3)▽和田倫子(文3) (敬称略)

【ニュース専修2005年4月号9面】